



ポジティブに自分らしく生きる

運動会は、各クラス・学年の絆を深めるチャンスと捉え、各クラスの実行委員を中心に全校生徒が一丸となって協力し、とても素晴らしいパフォーマンスを発揮してくれました。大野先生のTシャツのデザインにもありましたが、「頑張っている君に金メダル」という気持ちでいっぱいです。本当に皆さんよく頑張りました。そして、ありがとうございました。



そして、運動会が終わったあと、9学年では、進路説明会を開催しました。9年生の保護者を中心に、7・8年生の保護者の方も多くご参加いただき、ありがとうございました。私からは、「自分の力を伸ばすことができる進路先」「インターネット出願」「手続きの期日を厳守」などのお話をいたしました。また、担当からはより具体的なお話をしたところですが、12月の三者面談で進路希望を決定することになりますので、今一度、資料等をご確認いただくとともに、親子でよく相談し、意思の疎通を図ってください。さらに、明日からは1学期の期末考査となります。放課後の質問教室にも多く参加している様子があり、意識の高さがうかがえます。4月からの学習を振り返る良い機会となりますので、9年生はもとより、7・8年生もしっかり準備をして、当日を迎えてください。皆さんの頑張りを期待しています。

さて、本日はポジティブに自分らしく生きることについて考えたいと思います。

夢や目標を持ち、人とのつながりを大切にしながら、ポジティブに自分らしく生きていくことができる赤塚第二中学校

全校朝礼で、「みんなで作る赤塚二中」を合い言葉に、上記のことを実現していこうと話をしました。特に学期当初は「一年間の目標を確認すること」、「お互いを認め合う挨拶で人とのつながりを築こう」と伝えてきて、実際に素晴らしい運動会を実現してくれました。そこで、今回は『ポジティブに自分らしく生きる』ことを考えてみたいと思います。



片腕のバイオリニストとして活躍している伊藤真波さんの生き方から学びたいと思います。伊藤さんは、20歳の時に交通事故で右腕を失った後、苦悩の日々を乗り越え、日本初の義手の看護師という夢を叶えながら、水泳のパラリンピック選手としても二大会に出場。そして、現在は3人のお子さんを育てながら、講演活動とヴァイオリンに力を注がれています。この生き方については、多くのメディアやインターネット上のインタビュー等でも取り上げられており、いろいろ調べている中で、私が心に残った言葉を書き出してみます。

<https://www.youtube.com/watch?v=sFb2YTQh4b0&t=223s> (←クリックで動画を確認できます)

<https://www.youtube.com/watch?v=rJB7RqDqfKA&t=1012s> (←クリックで動画を確認できます)

- (腕を切るための手術前)何年かかったって、何十年かかったっていい。誰よりも幸せな人生を送ってみせる。両親のために笑った人生を送ってやると決めました。(動画より)
- 義手は隠すものじゃないし異質でもなくて。なんかかっこいい存在になればなっていうふうに思います。ありのままの自分を受け入れ前向きに一步を踏み出すこと。伊藤さんの生き方は私たちに大切な事を教えてくれています。(動画より)

- 病院に入院していたとき、同じ年の女の子から「つらいよね。でも生きているじゃん」と言われた言葉がずっと頭から離れなかった。「たしかに生きている。じゃあこの先どうするんだろう」と考え、前を向くきっかけになった。
- 看護学校の先生が来て「学校に戻ってきませんか？」と声をかけられたとき、「このまま何もない状態であるのが怖い」という気持ちがあり、「絶対に逃げない、弱音も吐かない」と、その申し出を受けることにしたのです。
- 作業用の特殊な義手を作ってもらい復学することになりましたが、初めは義手を使いこなすことが難しく、「片腕」を強く意識させられる場面が多かったです。それでも「ここ以外、自分の居場所はない」という覚悟で、できることは全部やろうと毎日、必死でした。
- 最初は、「周りと同じようにできるようにならなければいけない」と思って、頑張りすぎていました。でも、どんなに努力しても、「私ができることには限界がある」ことから、できることをしっかりやる。でも、どうしても難しいことは、周りの人をお願いする。そうやって役割を分けて考えるようになってから、少しずつ働きやすくなった気がします。「手伝ってほしい」という私の申し出を同僚は快く引き受けてくれました。
- 私は、ほかのお母さんと同じようにできないことが多いです。そして、できないことは、これからもなくなりません。でも、それらを受け止めて、「できない自分が生きやすい環境はどこか」「できない中でどう関わるか」を探し続けた結果、今につながったんだと思います。
- 水泳を選んだ理由はそれだけではない。右腕の傷跡、自分にとって一番弱い部分を見せることで、さらに強くなれると思ったからだ。

伊藤真波さんの生き方から何を感じましたか。交通事故で右腕を失い、絶望の日々を送ったことは容易に想像できると思います。しかし、伊藤さんは、右腕を切る手術のまえに、「何年かかったって、何十年かかったっていい。誰よりも幸せな人生を送ってみせる。両親のために笑った人生を送ってやる。」と決めたことを目標に、様々な苦悩を乗り越えてきています。特に、私が感銘を受けたのは、ありのままの自分・できない自分をしっかり受け入れ、できることを探し、諦めずに努力する姿です。



私たちにも得手不得手や長所短所が当たり前のようにあります。また、いつも思い通りにことが運ぶということはなく、うまくいかないことで気落ちすることもあります。このように人生を歩む中では、嬉しいこと、悲しいこと、困難なことなど、様々なことに会いますが、大切なことは、**自分を決して否定することなく、ありのままの自分を受け入れるとともに、自分にできることに焦点をあてて、できることから努力し始めることが大切**であると考えます。これが『ポジティブに自分らしく生きる』ということ。 「夢や目標を持ち、人とのつながりを大切にしながら、ポジティブに自分らしく生きていくことができる赤塚第二中学校」を実現できるよう、みんなで頑張っていきましょう。

「失われたものを数えるな。残されたものを最大限に生かせ。」(パラリンピックの創始者ルードウィヒ・グットマン博士)

生徒の活躍

○第77回東京都中学校地域別陸上競技大会

男子西部共通 1 1 0 m H	第 1 位
男子西部 3 年 1 0 0 m	第 1 位
男子西部共通 4 × 1 0 0 m R	第 2 位
女子西部共通 1 5 0 0 m	第 2 位
女子西部共通 1 5 0 0 m	第 3 位
女子西部 2・3 年 8 0 0 m	第 2 位



学校行事等のお知らせ

本校ホームページの赤二中日記では、学校行事等の様子を公開しています。右の QR コードもしくは下記の URL からご確認ください。また、玄関にも生徒の活躍等をサイネージとして公開しています。ご来校の際にはぜひご覧ください。

<https://www.ita.ed.jp/swas/index.php?id=1320142&frame=weblog>



赤二中日記